

224. 針江浜遺跡発掘調査報告(1)

—針江浜水泳場部分の調査—

1. はじめに

針江浜遺跡は、高島郡新旭町針江の湖岸に所在する。近接して、北には森浜遺跡、西には針江北遺跡、針江川北遺跡、吉武城遺跡等の針江遺跡群がある。

同遺跡については、1987年から3カ年にわたって、琵琶湖総合開発事業関連、針江大川船溜航路浚渫工事に伴う湖中部分の発掘調査の結果、弥生時代前期の集落の一部や、弥生時代中期の埋没林等が検出された。この結果、針江浜遺跡は湖岸から約200m沖合いまでの、広い範囲に広がる遺跡であることが判明した。

今回報告する調査は、滋賀県自然保護課の実施した針江浜水泳場の整備工事に先立ち1984年に行った発掘調査の成果である。

調査の結果、遺構は検出されなかったものの、良好な状態の木製品を多数含む遺物包含層を検出することができた。この調査結果については、発掘報告書の刊行が計画されていなかったため、いままで未報告であった。しかし、出土木製品の中に比較的出土例の少ない遺物が含まれていることから、本小文・遺物番号36の琴の部材のように遺物のみが一人歩きする事態も生じてきたため、今回この紙面を得、この発掘調査の成果を報告することとした。

2. 調査位置及び層位

今回調査を行ったのは、針江大川船溜の北約1000m、森浜遺跡の調査対象となった新川船溜の南約400mの地点の、水泳場として利用されている砂浜である。調査位置は、現在の湖岸堤より内側の、なだらかに琵琶湖に向かって傾斜する砂浜部分に当たる(第2図)。すなわち安曇川の北側に発達した浜堤の縁辺部に当たる。かつてはこの西に内湖と湿地が広がり、容易には人の近づけない場所であった。

調査前の地表面の状況は、湖岸に打ち寄せられた細かな砂の堆積の上に部分的に年代不明の造成土が認められた。

調査は、新たに藤棚を造る2カ所について行った。何れも湖岸線から約6mの地点である。

基本的な層位は、第1層 造成土、第2層 褐色砂

第1図 位置図



層(現在の砂浜)、第3層 灰褐色粘質土層、第4層 茶褐色腐植土(遺物包含層1)、第5層 暗灰褐色粘土層、第6層 暗茶褐色腐植土層、第7層 茶褐色粘土層、第8層 茶褐色腐植土層(遺物包含層2)、第9層 灰褐色砂礫層である。

第7層までは、ほぼ水平な堆積状況を示すが、遺物包含層2は、北東方向に傾斜する第9層に沿って堆積している。遺物包含層上面の標高は約83.30mである。(現在の琵琶湖の平均水位は84.371mである。)

3. 包含層1出土遺物

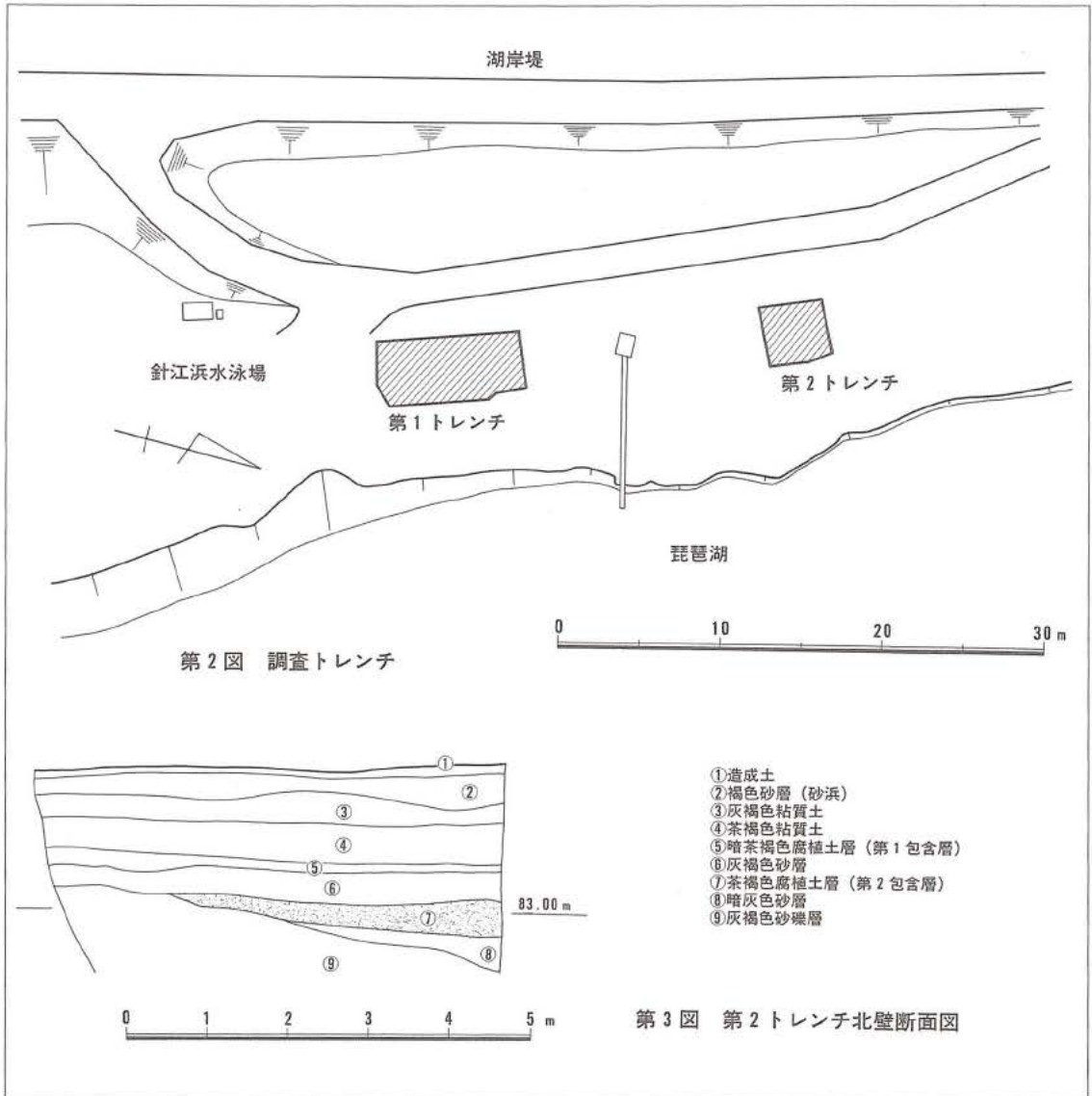
1. 小判形の板に3個の角孔を穿つ。農耕用の田下駄か。広葉樹。これに類したものは、針江ではごく近年まで湿田の耕作に用いられていたという。
2. やや小振りの下駄である。3個の角孔を穿つ。右足用。先端の1孔は、ほぼ中央に位置する。針葉樹。
3. 下駄。破損しているため、細部の形状は不明である。

これらの年代については、共伴する土器が全く無かったため現段階では保留しておきたい。

4. 包含層2出土遺物

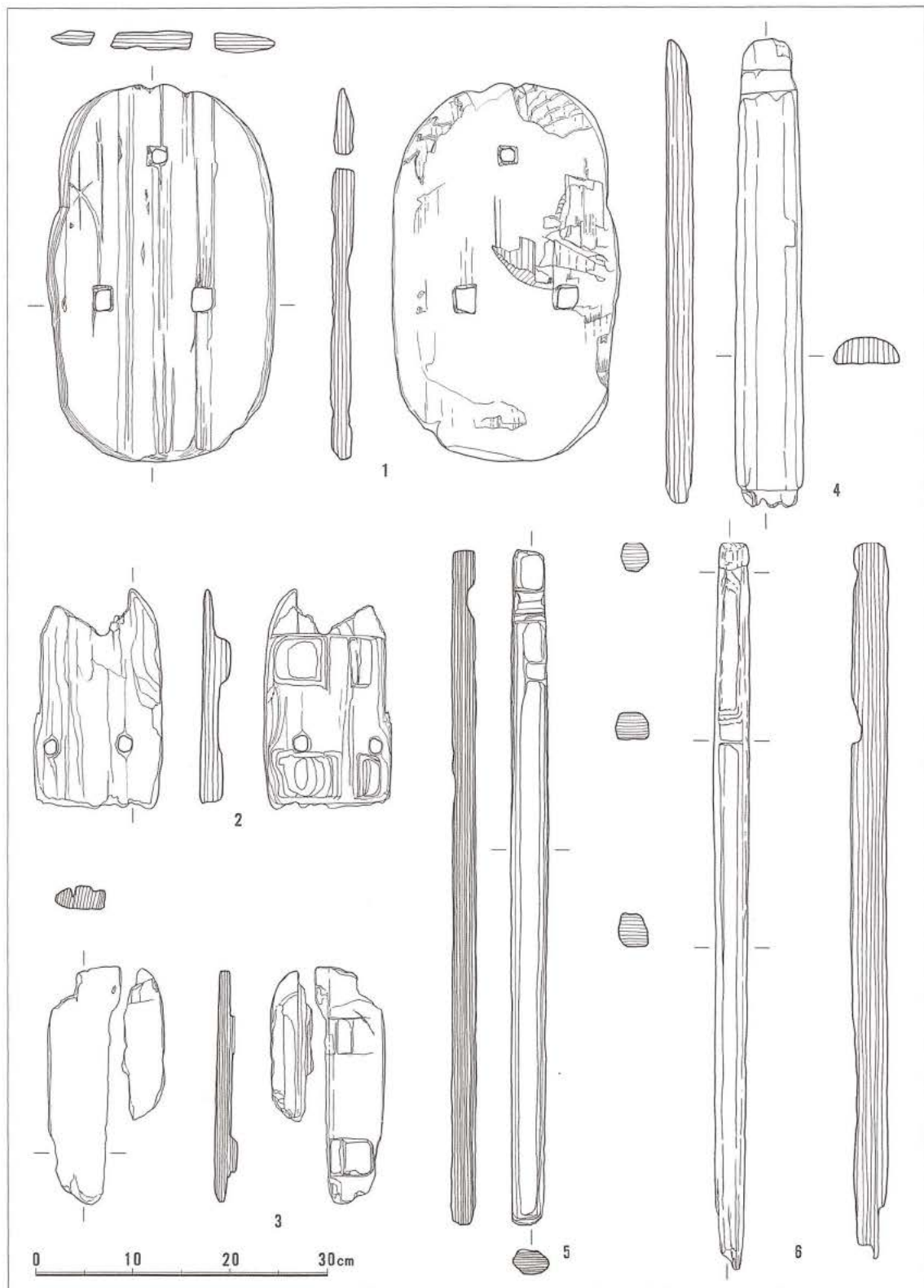
(第1トレンチ)

4. 板状の木製品。両端付近を浅く削る。断面形は半円形を呈する。針葉樹。
5. 棒状の木製品。断面楕円形。図上端付近を浅く削る。針葉樹。

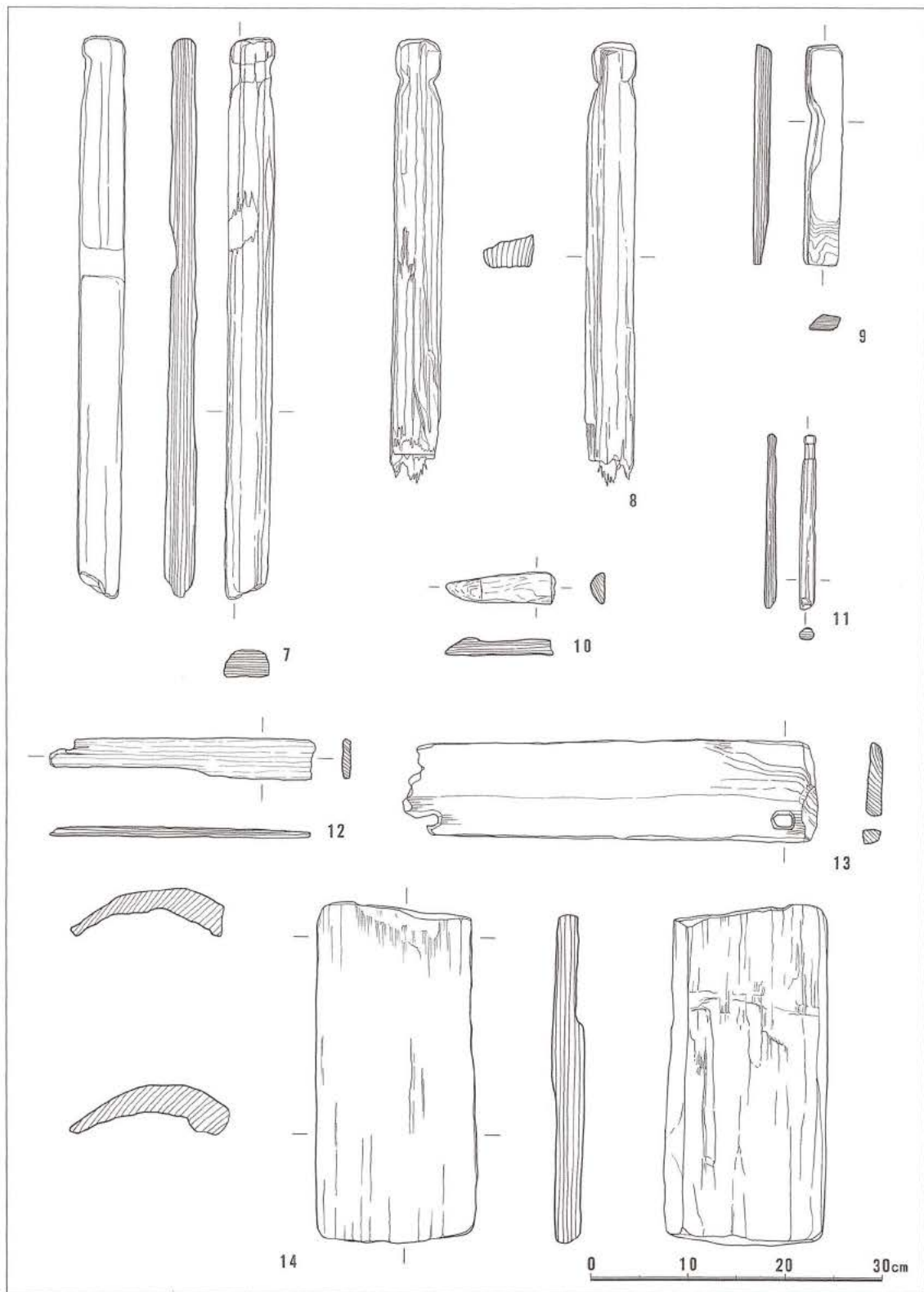


6. 棒状の木製品。図上端付近の2カ所を浅く削る。断面形は円から方形に緩やかに変化する。図下端より欠損。針葉樹。
7. 棒状の木製品。図上端付近と中央を浅く削る。断面形は半円形を呈する。図下端より欠損。針葉樹。
8. 棒状の木製品。図上端付近を左右から浅く削る。断面形は不整形の方形を呈する。図下端より欠損。針葉樹。
9. 棒状の木製品。片面を浅く削る。断面形は平行四辺形に近い形状。針葉樹。
10. 棒状の木製品。図左端を削りだして肥厚させる。断面形は半円形に近い形状。図右端より欠損。針葉樹。
11. 棒状の木製品。図上端を浅く削る。断面形は円形に近く、上端より下端に徐々に太さを増す。図下端より欠損。針葉樹。
12. 板状の木製品。図下辺を浅く削る。また、左上端付近に穿孔の痕跡らしき挟りが観察される。針葉樹。
13. やや厚めの板状の木製品。図右下端付近に方形の小孔が穿たれている。また、左下端にも同様な小孔が穿たれていたと推測される挟りが観察される。針葉樹。
14. 板状の木製品。弧状の断面形を呈する。左右の厚みには大きな差が認められる。図左右の端が欠損している。本来円筒形もしくは船底状の器物の一部か。針葉樹。

(大沼 芳幸)
次号につづく



第4图 出土遗物实测图(1)



第5图 出土遗物实测图(2)